

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

気づき・思考／学校法人白石学園 辻ヶ丘幼稚園

子どもたちは、どのような時に生き物の命を実感するのでしょうか？この事例では、子どもたちが大事な田んぼで見つけた“つぶつぶ”に関わることで、「生きているもの」「元気のある様子・ない様子」を感じ取り、対象への関わり方や自分の行動を考えています。幼児なりに気づきや思考を重ね、自ら「科学する心」が育まれる体験をしています。



○ 田んぼに“つぶつぶ”発見（米作り）／5歳児

6月中旬、全園児が園庭のミニ田んぼでの泥んこ遊びを楽しみ、5歳組が田植えを経験した。その後、田んぼでの虫探しや稲の育ちを観察することが日課となる。

保育の工夫

田起こしを兼ねて、泥んこ遊びができるようにする。

✿ 場面1

Hちゃんが田んぼの様子を見に行ったら、田んぼの中に“つぶつぶ”があることに気づき、友達に知らせたことで、数名の子どもたちが集まる。その正体は何か不思議そうに友達と会話しながら、田んぼの回りを一回りし、1ヶ所だけでなく他の所にも“つぶつぶ”があることに気付く。

Dちゃんが「卵かも！」と言うと、Hちゃんは「前、田んぼでカエルを捕まえたからカエルの卵かも！」と言う。「メダカの卵にも似てるよ」「捕まえてみよう」と他の子が田んぼの中に手を伸ばし捕まえようとする。Hちゃんもやってみるが「捕まえようとする」と逃げちゃう…」と言う。それを聞いてNちゃんは「あっ！水の中で逃げる生き物はアメンボじゃない？」と言う。

Hちゃんはそーっと優しくすくい、手のひらに載せると、それを見たDちゃんは「やっぱり、卵だ！」と言う。何の卵なのか知りたい子どもたちは、育てることにする。

Hちゃんは飼育ケースに水と泥を入れ、「田んぼの土ぐらい多いほうがいいかな？もう少し入れてみよう」と、少し泥の量を増やし、部屋へ持って行く。



保育の工夫

何の卵かな？どうしたら分かるかな？どうしたら捕まえられるかな？など、子どもの気持ちに共感し、子ども自身が考えられるような言葉かけをする。

分析 気づき

- 卵かも！捕まえようとするとう逃げちゃう…、やっぱり卵だ。

思考・想像力

- そーっと優しくすくったり、田んぼの土ぐらい多いほうがいいかな？もう少し入れてみよう、考えてやってみる。

✦ 場面2

田んぼで見つけたつぶつと、子どもたちがイメージしたメダカの卵の画像を比べる。すると、「メダカの卵は真ん中が黒っぽくなっているからメダカじゃないね」と、形や色が少しずつ違い、卵ではないということが分かる。Hちゃんは田んぼで見つけた時より、「つぶつと」が少なくなっていることに気付いて話す。

「ほんとだ。消えたのかな？」「消えるってことは泡ぶくぶくの“ぶくぶく”じゃない？」
「田んぼの土の下に何か生き物がいて“ぶくぶく”って息をしてるんじゃない？」「でも、何もいなかったよ」と話し合う。

Kちゃんが「あと、田んぼには稲があるけど、虫かごの中には稲がないから“ぶくぶく”消えちゃったんじゃない？」と、写真を見て気付いて言う。「田んぼと同じように、稲も入れてみたらいいんじゃない？」「じゃあ、明日、生き物を探すと稲を持ってきて入れて見てみよう！」と話し合う。



保育の工夫

メダカの卵の画像と、書画カメラで映した田んぼのつぶつとを、大型テレビで観察できるようにする。

分析 気付き

- メダカの卵は真ん中が黒っぽくなってるからメダカじゃないね。
- 田んぼで見つけた時より“つぶつと”が少なくなってる！田んぼには稲があるけど、虫かごの中には稲がないから“ぶくぶく”消えたのかな？

思考・想像力

- 消えたのかな？消えるということは泡の“ぶくぶく”じゃない？田んぼの土の下に何か生き物がいて“ぶくぶく”って息をしているのかな？田んぼと同じように稲も入れてみたらいいのかな？

✦ 場面3

田んぼの土の中に何か生き物がいないか、子どもたちは一生懸命探したが見付からなかった。

“つぶつと”の中に稲を入れると、翌日、“ぶくぶく”があることに気付く。

しかし、数日後、水もぶくぶくもなくなってしまった。

「息してないのかな…？」「稲の葉っぱが少し黄色になってる」と、慌てた様子になる。

保育者が「本当だね。どうしようか？」と問いかける。

Hちゃんが水を入れると、また“ぶくぶく”ができたのを見て、「水が入っていて“ぶくぶく”があったほうが稲が元気になるんだね」と言う。



保育の工夫

子どもの気付きを受け止める。どうしようか？と子ども自身が考えるように言葉かけをする。

分析 気付き

- メダカの卵は真ん中が黒っぽくなってるからメダカじゃないね。
- “ぶくぶく”がある、水や“ぶくぶく”がなくなってる、稲の葉っぱが少し黄色になっている。

思考・想像力

- 稲を入れたら“ぶくぶく”ができたことで、稲が息をしていると考えた。
- 水がなくなったので水を入れ、水が入り“ぶくぶく”があった方が稲は元気になると考えた。

✦ 今後の保育へのつながりと展開

田んぼの観察を続ける中で、子どもなりに水がなくならないように気を付けるようになり、さらに稲の育ちを楽しみながら米

の収穫への期待が高まった。

気付いたことをみんなに伝えたい、発表したいという姿が増えた。今後も子どもの思いを受け止め、発表できる場やみんなで考える時間を設け、表現する喜びや楽しさを感じられるように環境作りを工夫していきたい。

今後、かかし作り→稲刈り→脱穀→精米→おにぎり作りの活動を計画している。友だちと一緒に考え、試す姿が見られるようになってきたので、米（おにぎり）作りまでの一連の活動の中で子どもの気づきを大切に、解決できるように努めながら意欲的に取り組めるようにしていきたい。また、日本人の主食である米について興味・関心をもち、収穫の喜びが味わえるようにしていきたい。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」